

雪崩発生条件の解明と観測機器の開発（H27~29）

背景：2014年県内全域で雪崩が多数発生、富士山では毎年雪崩が発生

目的：雪崩の発生を予測および検知し**災害を軽減**のための**雪崩発生条件**の解明と**観測機器**の開発

1. 雪崩発生状況の把握と地理的要因の検討

1.1 県内の雪崩発生状況の把握；1.2 斜面解析；1.3 ハザードマップ

2. 雪崩発生メカニズムの研究

2.1 雪崩発生条件の観測

気温、降雪量、雪面の温度変化の観測の実施

雪崩発生事例のデータの収集

2.2 雪層の安定度に関する研究

雪層の実際の強度を測定

3. 雪崩の予兆現象の検出に関する研究

3.1 雪の安定性に関する研究

実験施設において傾斜計、加速度計を用いて斜面での雪の安定性を観測

3.2 予兆現象の観測

野外においてビデオカメラを用いて雪の表面の動きをとらえる試み

4. 雪崩発生メカニズムを理解するための機器の試験

4.1 計測機器の選定と計測器の試験

4.2 携帯電話によるデータ転送システムの確立

タイプⅠ：高耐久性スマートフォンを使用した投下回収型雪崩検知装置も開発**特許出願中**

タイプⅡ：省電力型振動検知装置（試作機）

5. 計測器を応用した雪崩発生検知手法の開発

5.1 計測器を応用した雪崩発生検知手法の開発

5.2 実地テスト

既存の火山観測網を使った雪崩検知手法の確立

タイプⅠの実地テスト

【成果】

雪崩災害軽減のための基礎データの蓄積

雪崩発生検知手法の確立

観測機器の開発
特許出願中

【活用】

観測情報
→雪崩発生メカニズムの解明

観測機器
→雪崩観測
→土砂移動観測

赤字は実施項目、取り消し線は未実施項目